



日 本自動車会議所は11月17日、18日の両日、東京・江東区のパレットタウン内「メガウェブ」で、交通安全の大切さやルールを楽しく学べる体験型交通安全啓発イベント「交通安全。アクション2018 お台場」を開催し、多くの家族連れやカップル、観光客などで賑わった。来場者は2日間で約1万5,000人(主催者集計)、体験者は延べ6,900(同)人にも上り、盛況のうちに幕を閉じた。「交通安全。アクション」は2016年から春と秋の年2回開催しており、今年も春は「春の全国交通安全運動」期間中に、高齢者をはじめ幅広い年齢層が大勢訪れるターミナル駅がある「新宿」で開催。秋は多くの観光客が訪れる東京・お台場で開催している。

昨年の交通事故死者数は3,694人で、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最少となるなど、交通事故死者数は減少傾向にある。しかし、依然、高齢者の死者数が全体の半数を占めるなど、交通事故情勢は厳しい概況が続いている。開催初日、主催者を代表して開会の挨拶をした当会議所の畠山太作常務理事は、「3,694の悲劇を1つでも少なくするため、1人でも多くの来場者の皆さんに交通安全は本当に大切だと実感していただき、その気持ちをさらに周囲に伝えていただけるようなイベントとなるよう、2日間取り組んでいきましょう」と呼び掛けてプログラムがスタートした。



盲導犬のお仕事などを学べる「盲導犬ふれあい教室」。段差から転落しないよう、歩行者を守ろうとする盲導犬の健気な姿に多くの来場者が癒された(全国盲導犬施設連合会、日本盲導犬協会)

「交通安全。アクション2018 お台場」は、国土交通省、警察庁、警視庁交通部、東京都、江東区教育委員会が後援し、当会議所の会員団体はじめ開催の趣旨に賛同する、官民合わせて49の参画団体・企業が一体となって実施。「家族で広げよう交通安全」をテーマに、交通安全の大切さやルールを楽しく学べる16の体験型ブースを用意したほか、交通安全ビンゴ大会、キャンパスクイーンなどのステージショー、子どもたちに人気のスタンプラリーなども行われ、家族連れをはじめ、小さな子どもから高齢者まで多くの来場者がイベントを楽しんだ。

「交通安全。アクション2018 お台場」

会場風景



大勢の家族連れなどで賑わった会場の「メガウェブ」



子どもからお年寄りまで大勢の人が楽しんだ「交通安全ビンゴ大会」(広報企画)



華やかなステージで来場者を魅了した「キャンバスクイーン」のみなさん(スペースクラフト)



人間の目の錯覚を体験させながらステージを盛り上げるピエロのタフィーさんの「交通安全クイズ」(広報企画)



ライディングシミュレーター&ゲンチャレ(日本二輪車普及安全協会)



俊敏性測定「あなたの俊敏性は何歳？」(イーティエフ)



子ども安全免許証(日本自動車連盟)



おでかけぱんだ・頭部保護帽
(日本自動車研究所)



てんけんくんぬりえ体験コーナー
(日本自動車整備振興会連合会)



自動車運転適性診断「ナスバネット」
(自動車事故対策機構)



お子様の命を守るチャイルドシート
(日本自動車部品工業会)



首都高安全広報隊
(首都高速道路)



反射材体験
(全日本交通安全協会)



物忘れチェック体験
(全日本指定自動車教習所協会連合会、高齢者安全運転支援研究会)



オートバイ用胸部プロテクター
(全国二輪車用品連合会)



歩行者シミュレータ/ハイパースムーズ東京
(東京都青少年・治安対策本部)



盲導犬ふれあい広場
(日本盲導犬協会/全国盲導犬施設連合会)



交通安全約束手形
(共同ブース)



飲酒疑似体験ウォーキングゲーム
(共同ブース)



飲酒運転事故加害者の手記
(東京都交通安全協会)



スタンプラリーのスタート&ゴールでもある「総合受付」



司会者がキャンパスクイーンの皆さんと一緒にイベントの模様をライブ中継



愛嬌いっぱい子どもたちと接する警視庁のマスコットキャラクター「ピーポくん」(中央)と日整連のマスコット「てんけんくん」(右)